

電源立地地域温排水有効利用事業調査

I 大間地区 奥戸海域モズク生育調査

(要 約)

桐原 慎二

発電所からの温排水排出が予想される奥戸海域において、温排水を利用したモズク養殖の基礎資料を得るため、そこでのイシモズク生育特性を検討した。なお、詳細については『平成2年度電源立地地域温排水等対策事業調査報告書（大間地点）』として報告した。

方 法

1990年6月15日、7月10日及び8月9日の計3回、大間町奥戸の冷水、向町、高岩の3地先にある水深0.5m、1m、2m、4m及び8mにある5地点、合計15地点について、海底形状を目視観察するとともに出現する海藻の種類と生育状況を記録した。さらに、各地点に生育するイシモズクについて、付着基質となった岩盤、転石あるいは海藻などの種類ごとに50cm×50cmの範囲を枠取り採取した。採取したイシモズクの成熟を観察するとともに湿重量を測定後、体の大きい順に20個体を選び体長を測定した。

結 果

奥戸地域冷水、向町、高岩の3地先の海藻は、潜水観察の結果、地先によって生育状況が異なり、海藻の出現種数が乏しい向町地先では、イシモズクの生育地点、量とも他の2地先に比べ著しく少なかった。地先によりその生育に差異が認められたため、モズク採苗、養殖を試みる際に、事前に養成場の生育特性を把握する必要があると考えられた。

イシモズクの生育量、体長は、水深2m以浅に生育した藻体では海底着生、海藻付着の別に係わらず、7月に最大となった。一方、4m以深に生育した藻体では、生育量、体長とも8月まで増加し続けた。また、成熟した藻体は、8月調査時に水深2m以浅の一部に観察されたものの、4m以深の藻体では認められなかった。これらから、調査海域のイシモズクは浅所に生育する藻体が深所のものに比べ生長が早いと推察された。また、イシモズク漁場には水深2m以浅が充てられているが、比較的深所でも生育するため、未利用な深所をその養殖漁場に利用できると考えられた。

岩盤に付着するいわゆる『イワモズク』と、海藻に付着する『クサモズク』の生育水深、体長には顕著な差異が認められなかった。しかし、各調査地点での生育量は各々一致せず、両者の好適生育環境が異なる可能性が推察された。

今後、生育環境をさらに検討し、養成技術の開発を試みる予定である。